

北海道新幹線新八雲（仮称）駅周辺整備計画策定支援業務  
公募型プロポーザル講評

本プロポーザルに係るプレゼンテーションは、新駅のデザインコンセプトである「牧場の中にある駅」や駅前周辺整備に係る方針「牧歌的風景」に沿うような、農業関連施設整備、民間連携・民間誘致、そして町民会議等を通じた合意形成手法やその他の独自提案を含めたテーマに基づき、3者による創造性豊かな技術提案をいただきました。

技術提案者によるプレゼンテーション及びヒアリングの中で、焦点が当てられたのは、「牧歌的風景」と「集客力に係る開発」のバランスのとり方、客観的に乗降客数が厳しい条件下での整備手法、市街地から新駅へ繋ぐ交通手段、そして当町のみならず、周辺地域を巻き込んだ広域戦略の考え方でした。

3者の提案内容には、これらの考え方がさまざまに盛り込まれており、選定委員が、的確性や独創性、実現性などの視点に基づき審査するうえでの大きなポイントでもありました。

また、農業関連施設について、法規制に則った農地開発手法や規模感、民間連携等については、具体的な会社名を挙げながら連携手法に加え、費用負担などの考え方について全ての技術提案者から提案いただきました。

選定委員会は、3者によるプレゼンテーション及びヒアリングの実施後、第1次審査の評価と合わせ最終的な評価を行い、各テーマに対する技術提案について、本計画策定支援業務の内容を十分に理解し、将来を見据えた具体的かつ意欲的な提案と履行体制により確実な設計業務が期待できる技術提案者を最優秀（受注候補者）として選定いたしました。

優秀者（次点者）を含めたその他の提案者からも、「牧場の中にある駅」という課題に対し、独創的で優れたご提案をいただきましたが、その中でも、最優秀者については、新駅周辺整備の考え方に加えその進め方、難しい課題と認識しつつ、今までの他自治体の駅周辺整備等の実績・ノウハウ、そしてその反省点を当町の新駅への活かし方を有していること、また、農業の発展に寄与する機能を有する実現性の高い土地利用、施設配置などの提案内容が特に優れていたため、最も高く評価される結果となりました。

北海道新幹線新八雲（仮称）駅周辺整備計画策定支援業務

プロポーザル選定委員会 委員長 八雲町 副町長 成田 耕治